

インターネットで育児に関する情報を提供している小児科医

### かわむら かずひさ 川村 和久さん 53

育児を初めてする母親にとって、新生児医療にかかりましても、離乳食を始める時期一つ。赤ちゃんが生まれてくるのと同じく、子どもの将来に影響は両親にとってはお祝い事ではないか不安になるもの。それも、病気で新生児医療を受けるした不安を取り除こうと、小児科開業医の川村和久さんがインターネットで提供している「小児科ミニ知識」へのアクセスが7月に100万件を突破した。

「母親の不安・心配の解消」をクリニックの理念に掲げる川村さんに取り組みを尋ねた。

(箱守裕樹)

——インターネットを活用し始めた経緯は  
小児科医になってから15年ほ

## 母親の不安解消したい

### HP開設、アクセス100万件に

医療で赤ちゃんが元気になっても、母親の不安や心配を解消しなければ、不安を抱えたまま子育てをすることになるので。それは赤ちゃんにも悪影響を及ぼしてしまいます。

最初、医療情報などを書いた作り手の新聞を作り、クリニックに来るお母さんたちに渡していましたが、次第にあまり読まれていないことに気づきました。インターネットのホームページ(HP)にすれば、見たい人が見るだろうと考え、1996年1月にHPを立ち上げました。新聞を3年間発行していたため、その情報を盛り込み、内容あるHPとしてスタートすることができました。

6年1月にHPを立ち上げました。新聞を3年間発行していたため、その情報を盛り込み、内容あるHPとしてスタートすることができました。

5000件近くの相談が寄せられました。3〜4年前がピークで、多い月では約180件、現在でも60、70件ほど相談が来ています。大半が医療相談で、「こ

——HPの具体的な内容は、子どもの病気や薬の使い方、予防接種などさまざまな話をテーマごとに検索できる「小児科ミニ知識」のほか、ボランティアで医療相談に応じる「質問箱」があります。「質問箱」に

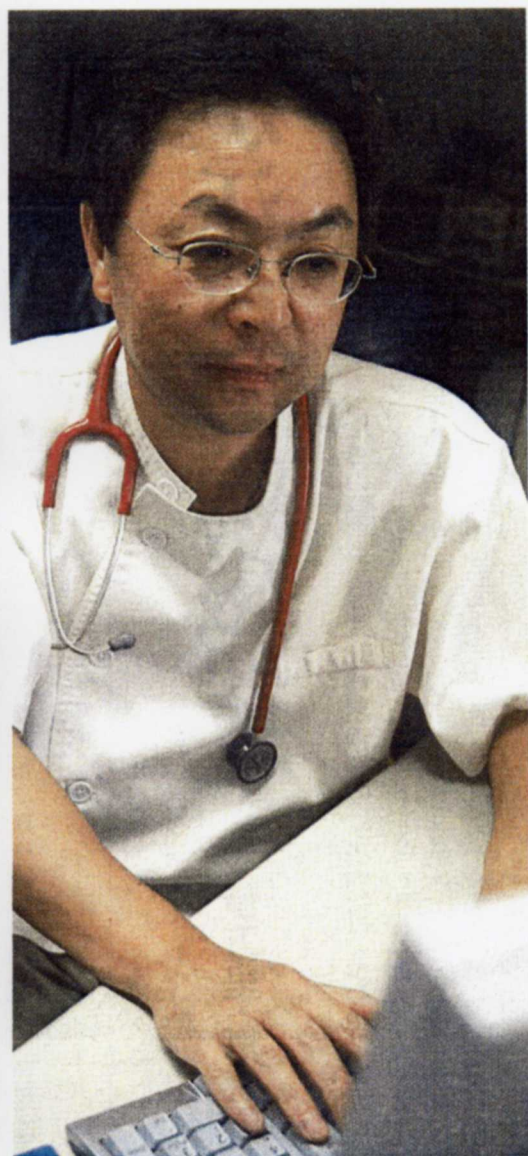
子どもの病気や薬の使い方、予防接種などさまざまな話をテーマごとに検索できる「小児科ミニ知識」のほか、ボランティア

ただ、インターネットの相談だけでは、こちらの伝えたいことを母親が十分理解していない

——理念を広げる取り組みは患者の不安、心配の解消に大切なのは、なんと言ってもコミュニケーション。インフォームド・コンセントは説明と同意のことですが、私は説明と同意の間に「患者さんの納得」が入ると考えます。これは、小児科だけでなく、あらゆる診療科で役に立つことです。

2000年から東北大医学部から実習生を毎年5人受け入れています。病院実習前の「プ

ライマリーケア実習」を受けたいと希望する医学生もこれまでに北海道や長崎から8人受け入れました。医学生たちには母親たちから来るメールを見せ、不安、心配の解消の重要性を理解してもらっています。次の世代の医者にも、私の理念を伝えていきたいと考えています。



## 異才面談

かわむらこどもクリニックホームページ「小児科ミニ知識」が一番の人気コーナー。これまでに寄せられた相談と回答をまとめた「Q&Aコーナー」もアクセスが多い。アドレスは<http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

気仙沼出身。杏林大医学部を1978年3月に卒業。仙台赤十字病院、日立総合病院新生児科などに勤務し、93年7月に「かわむらこどもクリニック」を開業した。